

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール 24 時間宅老所 新田の楽さん家 別紙②

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 充分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	理念を職員の目が届く玄関前、スタッフルームに掲示している。また、新人研修の内容の中でも理念に関して伝えている。			理念に関して、今後も日々の支援や会議等で理念に添った支援が来ているか振り返りながらケアの質の向上に努めていく。
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A. 充分にできている B. ほぼできている Ⓒ あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者と一緒に近隣のスーパーへ買い物したり、喫茶店へお茶しに行く事で地域との交流を深めている。	気候や感染状況により地域との交流が厳しい時もあると思う。		地域との交流が減ってきている為、気候や感染状況を見極めながら納涼祭の参加、避難訓練に参加して頂く等地域との交流を深めていく。
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 充分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議では、楽さん家の概要説明、避難訓練の内容等について報告し、委員の方より助言をもらいサービスの質の向上に努めている。	会議では情報共有の場となっており、有意義な時間になっていると感じる。		サービスの提供に関して、委員の方より意見を頂きながら、今後のサービスや業務に活かしサービスの質の向上に努めていく。
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	A. 充分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	介護保険制度や介護事故等の内容に関して不明点があれば市の担当窓口へ相談を行い助言を頂いた。管理者が GH 連絡会の運営に携わっており、制度面や運営面に関してを市の職員の方にも参加して頂き、助言を受ける事で関係性構築に努めている。	市と協力できており、今後も継続していければ良いと思う。		今後も制度面や介護事故等の内容に関して、不明点があれば市へ相談しながら対応していく。
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 充分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	身体拘束についての研修を2回、身体拘束適正化会議を年に4回実施。入居者の支援の課題についてのアンケート調査を行い、会議を用いて解決策に関して話し合いをしている。 玄関の施錠に関して、夜20時から翌朝8時まで防犯の為、施錠。		Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者の支援に関して、日頃より各職員の悩み等も聞きながら支援の課題について解決していく事で、身体拘束をしないケアに努めていく。

6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員が虐待について学ぶ機会として、高齢者虐待研修を年に2回開催している。役職者が中心に各職員へ入居者の支援の悩みの確認をし助言する事で、職員のストレスマネジメントにも努めている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日頃より各職員に支援や業務に関する悩みを聞きながら、助言する事で職員のストレスマネジメントにも繋げていく。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	権利擁護や成年後見制度の内容に関して、事業所内研修にて職員が学ぶ機会を設けている。			各職員が権利擁護や成年後見について事業所内研修や外部研修にて学ぶ事が出来る機会を設けていく。
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	契約内容に関して不安や疑問点がないか、その都度確認しながら、契約を進めている。契約内容で変更があった場合もその都度説明を行い同意を得ている。			契約内容に関して、その都度不明点等ないか確認しながら対応を進めていく。また、契約内容の更新があった際にも家族が不安にならないよう説明していく。
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者、家族から意見や要望が上がった場合、要望シートの作成を行い職員間で情報共有している。また、上がった意見に関して職員会議にて話し合う機会を設けている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	引き続き、本人や家族の要望を確認しながら支援の提供に努めていく。また、要望が上がった場合には会議等にて職員間で情報共有していく。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員会議を開催し、職員の意見を聞く機会を設けている。また、役職者が中心に各職員の状況に合わせて個別面談を行っている。代表者へ報告、相談する内容があれば、管理者が代表して経営会議にて報告、相談を行っている。			運営面の意見に関して、役職者が中心に各職員の状況に合わせて面談を行っていき、意見が上がった内容を役職者より代表者へ相談していく。
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	参加したい外部研修があれば受講できるよう勤務状況を把握し、現場の体制を整えている。また、資格取得に応じた賃金テーブルがあり、やりがいを持って働けるように職場環境を整えている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員がやりがいをもって働く事が出来るよう職場環境や勤務状況の見直しをしていく。資格取得に向けた研修にも参加出来るよう現場の体制を整えていく。

12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	介護技術や職員の育成など様々な研修案内を業務日誌へ情報提供している。職員が興味のある研修に参加出来るように勤務体制を整えている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員の興味がある研修があれば勤務体制を整えて、参加出来るように配慮していく。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	管理者が GH 連絡会の運営に携わっている為、同業者と事業所の取り組みや運営に関する課題等について意見交換を行い、助言を頂く事でサービスの質の向上に努めている。			引き続き、GH 連絡会を通じて同業者との交流を深めていき、意見を参考にしながらサービスの質の向上に努めていく。
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者の状況に合わせて家事手伝いや掃除等自身で出来る事は職員と一緒に作業を行い、日常生活の中でやりがいをもってもらえるよう支援している。			入居者が自分らしく過ごして頂く為に自分で出来る事はしてもらい、日常生活の中でやりがいをもってもらえるように支援していく。
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者の家族や親戚の方との繋がりに関して、感染状況を見極めた上で玄関先で短時間の面会を実施したり、電話にてゆっくり会話が出来るよう環境の配慮を行っている。	家族の意見として、職員の心遣いがあり安心出来ている。		入居者本人と家族が安心して頂けるように感染状況を見極めながら、面会時にはゆったり会話が出来る場や外出が出来るように環境の配慮をしていく。
Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一日の過ごし方に関して、各入居者の状況に応じて本人に合った支援の提供をしている。意思疎通が難しい入居者に関しては、家族に意向の確認をし、本人の意向に近づけるよう支援の提供をしている。			引き続き、入居者本人、家族の思いを確認しながら本人の意向に添った支援の提供をしていく。
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人や家族の意向を確認した上で、課題内容について職員間で話し合いながら介護計画を作成している。介護計画のモニタリングに関しては、2ヶ月に一回の職員会議にて話し合いをしている。	アセスメントをとって本人の意向をケアプランに入れていくと良いと思う。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の日頃の状況を把握した上で本人、家族の意向をもとにケアプランに反映させていく。

18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日常生活の状況についてD4シート(日常生活の記録)、医療日誌、業務日誌の活用を行い、勤務前に記録物の確認をする事で状況把握に努めている。気づきがあれば、情報発見シート等の活用を行い、職員間で情報共有をする事で支援の見直しをしている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	記録は職員間の情報共有で大切である為、引き続き細かい事でも記録に残し、その都度入居者の支援の内容の見直しをしていく。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者の日常生活において課題がある場合、家族へ相談の上、主治医と連携を図りながら、必要に応じて理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等より専門的な助言をもらっている。	主治医と連携を図りながら対応出来ていると思う。		医療面に関して特記があれば主治医と連携を図りながら対応していく。また、家族にも医療面に関してその都度状況報告していき、安心して頂く。
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	感染や気候状況に応じて入居者の意向を確認しながら近隣スーパーへ買い物へ行く等、充実出来る支援の提供を行う事で地域との交流を深めた。	近隣のスーパーの活用は地域との交流で良いと思う。		本人の意向を確認しながら感染や気候状況を見極め、近隣のスーパーへ買い物や喫茶店へ外出していき地域との交流を深めていく。
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	看護職員が中心に協力医療機関と連携を図りながら、必要に応じて24時間往診体制で適切な医療を受ける事が出来るようにしている。			入居者の体調面で特記があれば看護職員が中心に主治医と連携を図りながら対応をしていく。
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入院発生時は、安心して治療が受けられるよう家族同意のもと入院先の医療機関へ口頭での情報提供を含め、情報提供書の提出を行っている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者が入院、退院した場合には、地域連携室と連携を図りながら入居者の情報交換をしながら安心できる対応に努めていく。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	契約時には重度化の指針、看取りについての内容を説明し同意を頂いた上で、家族の意向の確認を行っている。本人の状況が変化した場合は、家族、職員と今後の方向性について再度意向の確認を行い、書面に残している。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	看取りを希望された場合には、その都度家族へ意向の確認しながらその人らしく安心して過ごして頂けるよう支援していく。

24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	急変時や事故発生時に関してのマニュアルを作成し、職員が確認出来るようにしている。新人職員に関しては、新人研修の内容で急変時の対応等について看護職員が助言している。			特に新人職員に関しては、急変や事故発生時の対応について不安に思っている為、冷静に対応が出来るよう研修や日々の支援の中で伝えていく。
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	防災訓練を年1回、避難訓練を年に2回実施。実際に入居者の避難誘導を行い、消防機関の方より助言をもらっている。	避難訓練の際には、自治会長より地域の人を呼ぶ事も出来る為、声をかけてほしい。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	避難訓練では、地域の人の参加が出来ていない為、開催する時には地域の人も参加してもらえるよう呼びかけていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者の自尊心、羞恥心に配慮しながら、入浴やトイレ誘導等の声掛けや対応を行っている。入浴に関して、同性介助を希望された場合は同性介助で対応を行っている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今後も入居者の自尊心、羞恥心に配慮しながら日常生活のサポートをしていく。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者の状況に応じて、起床、食事、就寝の時間を配慮している。支援する中で本人の意向をもとに対応している。			入居者一人ひとりの状況に応じて日常生活の支援の提供をしていく。
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者の好まれる物、苦手な物、嚥下状況を把握した上で食事内容の見直し、美味しく食べて頂けるよう声掛けの工夫をしている。また、季節感を味わって頂く為、定期的に食事イベントを開催している。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者が食事が楽しみな物になるよう時にイベント行事の提供をしながら、季節感を味わって頂けるよう配慮していく。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	当日、単月の食事量、水分量の状況がすぐ確認出来るようipad(電子機器)を活用し記録している。入居者の状況で主治医判断のもと、管理栄養士、言語聴覚士の方に来訪してもらい、嚥下状況や食事内容に関して助言を受けている。			各入居者の状況によって食事、水分量が異なる為、摂取量が少ない場合には看護職員に相談しながら、入居者本人に負担のないよう支援していく。

30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 十分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	口腔ケアに関して食後、就寝前に口腔ケアの実施を行い、口腔内の清潔保持に努めている。自身で口腔ケアが厳しい方に関しては、口腔ケアスポンジを活用し、職員が対応している。		Ⓐ. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今後も入居者の状況に応じて口腔内の清潔保持に努めた支援の提供をしていく。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 十分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	自発的にトイレに行く事が厳しい方に関しては、排泄チェックボードを活用し排泄状況を把握した上で、トイレ誘導を行っている。便秘予防として腹部をホットタオルで温めたり、水分提供をする事で自然排便を促している。		Ⓐ. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者の排泄パターンを把握しながら、不快感の軽減と自立に向けた支援の提供をしていく。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A. 十分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	夜間帯や一人体制を除き、出来る限り本人の要望に応じた入浴提供が出来るよう配慮している。			入浴に関しても本人の意向に添った支援の提供をしていく。
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A. 十分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	就寝時間に関して本人の状況に合わせて就寝対応している。日中に関しては、入居者の夜間の状況や体調面に合わせて、自室で休んで頂く時間の確保をしている。			入居者に安心して休んで頂けるように本人の状況に合わせて就寝対応をしていく。
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 十分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	薬の効能について確認が出来るよう薬を管理している横に薬の説明書を設置。薬剤訪問管理指導を契約している為、薬剤師より薬の服用方法に関する助言を受けている。		Ⓐ. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今後も薬剤に関して不明点等あればその都度、薬剤師へ相談しながら対応していく。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 十分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々に合った家事手伝い、パズル、おはじきの色分け等の個別的な作業の提供や集団でのレクリエーションで歌、体操、ボールゲーム等の提供を行っている。	楽しそうなイベント行事が多くあって良いと思う。		日常生活の中で楽しみをもって頂けるよう個々にあった家事手伝い等の役割や季節に応じたイベント行事の提供をしていく事で、充実して過ごして頂く。

36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個別家族会にて入居者、本人、職員で買い物に行ったり、喫茶店へ外出する事で家族、地域との交流を深める事が出来た。	買い物等の外出する事は本人にとって刺激にもなり良いと思う。		外出に関して、感染症の状況や気候の状に応じて支援の提供をしていく。
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない Ⓓ. ほとんどできていない	金銭に関しては基本的に職員が管理している。時に職員と一緒にスーパーへ買い物に行っている。			金銭管理や支払い対応が厳しい場面もあるが、入居者と買い物に行く等本人に合った充実出来る支援の提供をしていく。
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	家族や知人と電話がしたいと要望があれば、その都度対応している。年賀状を書く事が出来る方は職員と一緒に作成をしている。			入居者、家族の意向に添って電話や手紙のやりとりが出来るように職員がサポートしていく。
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	自力で歩行が出来るよう廊下の手すりを活用し、歩行訓練を行っている。 玄関には季節に合った造花や和の置物を飾り、家庭的な雰囲気 の工夫を行っている。		Ⓐ. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	認知症の方にとって環境は重要であるため、各入居者の状況に応じた居心地の良い空間づくりに努めていく。

IV. 本人暮らしの状況把握・確認項目（利用者一人ひとりの確認項目）

40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者の意向を確認しながら、状況に合わせた日常生活支援の提供を行っている。			その都度入居者の意向を確認しながら、日常生活支援の提供をしていく。
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	生活歴に関して日頃の本人との会話や家族から情報収集を行っている。また、職員間で情報共有する事で一貫性のある支援に繋げている。			入居者本人に安心して生活して頂く為には、本人の生活歴等の情報を把握した上で支援の提供をしていく。
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	看護職員が中心に体調管理を行い、何かあれば主治医へ相談し、指示を仰ぎながら対応している。		Ⓐ. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	体調面に関しては何か特記があれば主治医、看護職員と連携を図りながら対応をしていく。

43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人、家族へこれまでの生活習慣を聞きながら意向に沿った支援の提供をしている。共同生活の中で厳しい場面もあるが、その都度安心して頂ける声掛けや環境の工夫をしている。			入居者本人の生活歴や日々関わる中で本人の性格を把握した上で安心出来る日常生活支援の提供をしていく。
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の馴染みの物(家族の写真、ぬいぐるみ、靴)を自宅から持って来てもらい、自室に設置する事で安心して頂ける環境の配慮を行っている。		Ⓐ. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者がこれまで大切にしてきた物を継続して所持する事が出来るよう職員がサポートしていく。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	感染や気候の状況を見極めながら、気分転換に買い物、個別支援(外食)の提供を行った。また、室内で充実して過ごして頂けるよう季節に応じたイベント行事を開催している。	帰宅の訴えがある場合の対応はどのように対応しているか？		帰宅の訴えがある場合には、安心される声掛けを行い、厳しい場合は外に出て気分転換を行う事で本人も安心されている。引き続き、安心出来る声掛けや環境の工夫を行っていく。
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者の状況に合わせた支援(家事手伝い、パズル、おはじきの色分け等)の提供を行い、やりがいをもって頂けるようにしている。			入居者の性格や趣味を把握した上で本人の出来る支援(家事手伝い等)の提供をしていき、日常生活の中でやりがいをもって頂く。
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食堂の席の配置に関して入居者同士の性格等も考慮している。個別で過ごしたい方に関しては、個別の空間でゆっくりして頂ける環境の配慮も行っている。		Ⓐ. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者同士の交流も深めていけるように職員が間に入り、話題の提供をする事で入居者同士の関係性構築にも努めて対応していく。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができています	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者と一緒に近隣のスーパーへ買い物に行く事で地域との交流を深めている。	私の施設ではボランティアの方が入り、トロンボーンでの音楽療法を行っている。		地域との交流が減ってきていた為、地区の納涼祭の参加や避難訓練等で地域との交流を深めていく。
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができています	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日頃から本人と一緒に会話したり、買い物に行ったりする事で関係性構築に努めた。入居者、家族、職員と一緒に近隣の喫茶店へお茶する事で地域との交流を深める事が出来た。	手厚い支援が出来ていると思う。	Ⓐ. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	充実した日常生活支援の提供をしていく為には、日頃より入居者、職員との関係性構築に努めていき、その中で本人の喜ばれる支援の提供をしていく。また、地域との交流を深める為、イベント行事や買い物支援等で交流を深めていく。

2. 目標達成計画

事業所名： 24時間宅老所 新田の楽さん家

作成日： 令和7年 9月 11日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	25	年2回防災、火災訓練を実施しているが、感染状況により一部の入居者、職員、入居者家族、地域住民の参加が出来ていない現状である。日頃の訓練が不足していると、災害時に適切な対応が出来ない事も考えられる為、実際に避難誘導を含め訓練の内容を見直す必要がある。	消防からの委託を受けている業者(担当者)と連携を図りながら予定した訓練ではなく、現実的な訓練の内容を計画し、実践していく。また、参加した事のない職員に訓練へ参加してもらい、避難誘導の流れを学んでもらう。	現実的な訓練の内容を計画していく為、実施日は伝えるが、具体的な時間帯について入居者、勤務者には情報を伝えず実施。応援職員、地域の方がどのくらいで集まる事ができ、避難誘導出来るか時間の計測をする。また、訓練に参加した事のない職員に参加してもらい、避難誘導の流れを把握してもらう。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。